



南さつま市立 大笠中学校

生徒数 43 人
学級数 5 クラス



《テーマ》

人権を尊重し、生き生きと生きる生徒の育成

研究に当たって（テーマ設定の理由）

本校は、全校生徒43人の小規模校である。明るく素直な生徒が多いが、自己肯定感が低く、他人を意識しすぎて、自分のよさを発揮できない生徒も多い。また、小規模校のため、多くの人と会話する機会が少なく、自分の意見を伝えることに自信をもてない生徒も多い。そこで、生徒がもっと互いのよさを認め合い、より自分らしく生き生きと生きてほしいと考え、本テーマを設定した。

研究の実際

- 5月8日 教職員を対象にした人権同和教育研修会
- 6月23日 保護者を対象にした人権に関するPTA講演会
- 9月19日 生徒を対象にした人権教室
- いじめ問題を考える週間（毎学期1週目）における人権に関する道徳の授業の実施。
- 毎月の学校生活に関するアンケートで生徒の変容の把握。

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ ローテーション道徳（全学級、全職員での実施）

本校の道徳の授業は、担任、学年部関係なく、全ての教師がローテーションを組んで、全ての学級で授業を行っている。生徒と教師がそれぞれ、互いのよさを確認することで信頼関係の構築がなされること、多面的な考え方を学習すること、互いの道徳の授業を参観することで教師としての資質向上が図れるなど、とても効果的である。

□ チャレンジデー

毎月1回、昼休みに全校生徒が一緒になって遊ぶ「チャレンジデー」を行っている。生徒会が中心となって企画、運営を行い、全校生徒みんなで楽しい時間を過ごしている。全校生徒が一緒に活動することでコミュニケーション能力を高め、互いを認め合い、助け合う場となっている。

□ ポロシャツ登校

新しい制服の導入に伴い、制服のシャツではなく、自分の好きなポロシャツやTシャツを着用して登校する「ポロシャツ登校」を行った。生徒たちは自分と異なった服装でも互いを認め合うことができ、生き生きとした表情であった。



【人権に関するPTA講演会】



【人権教室】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの変容、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 専門的な研修や講話を通して、普段から行っている指導だけでなく、新たな人権意識を身に付け、人権教育を継続的に進めなければならない重要性を改めて実感できた。
- 自分と異なる意見や考えに対して、寛大な心で受け入れることができ、以前と比べて人間関係が良好となり、穏やかな生徒が増えた。
- 体験的な学習活動を充実させる必要性を感じた。限られた時間の中でどのようなことができるのか、今後、しっかりと検討していきたい。